

おこ か
「健や家づくり」のシステム工法／自立と介護の家づくり

有限会社 ケアライフ・システム

〒600-8335 京都市南区吉祥院砂ノ町16

Tel. (075) 693-0333

Fax.(075) 202-8455

<http://www.care-life.info>

(2008/6月号)



要望書署名のお願い

シックハウス症候群や化学物質過敏症については何度か紹介してきました。

すこやか&スマイル 2007/02号でも取り上げた『ガイアの夜明け 家があなたを壊すとき～シックハウスと闘う～』に患者として出演していた杉崎順子さんが、国土交通大臣と厚生労働大臣宛に《要望書》を提出するための署名協力を要請されています。

二度に亘る近隣のリフォーム工事で化学物質過敏症を発症し、その後住める所を探しながら闘病生活を送ってられます。しかし、無知・無理解・無関心・偏見…、そして杓子定規な行政の対応で一行に状況は改善されていません。それどころか、益々悪化してきているように思います。

詳しくは、<http://yoriyori.web.fc2.com/>をご覧ください。

日本の化学物質過敏症の患者数は推定70万～100万人。その10倍の予備軍が居るといわれています。最近のニュースで、EU諸国では3万種類の化学物質を規制しているそうです。しかし、日本では僅か13種類に指針値を設けているにすぎません。



この病気は、体が弱い人・アレルギー体質の人だけになるわけではありません。

健康な人でも、化学物質を大量に浴びれば、また、少ない量でも長時間浴び続ければ、誰でも発症します。

昨日までなんとも無かったのに、ある日突然**杉花粉症**になるのと同じです。

どうか一人でも多くの方の署名ご協力をお願いします。

近畿地方の今年の梅雨入りは6月2日で、平年より4日、昨年と比べると12日早いそうです。

どうやら台風5号の影響で早くなったようです。

梅雨の語源は、梅の実が熟す頃だからという説、この時期は湿度が高く黴(かび)が生えやすいことから「黴雨(ハイウ)」とも呼ばれたり、この音が転じて「梅雨」に転じたという説、「毎」日のように雨が降るので「梅」の字が当てられたという説などがあるそうです。



中国大陸部や台湾では「梅雨(メイユ-)」、韓国では「장마(チャンマ, 長霖)」といいます。

中国では「霉雨(メイユ-)」という字が当てられ現在も用いられることがあるそうです。

「霉」は「黴」のことで、日本の「黴雨」と同じ意味です。「雨」冠に「毎」で「カビ」と読むんですね。「霖」は「ナガアメ」と読みます。



気象庁が梅雨入り・梅雨明けの情報提供を始めたのは昭和30年(1955年)頃で、マスコミからの要請で「お知らせ」として連絡していました。気象情報として発表を始めたのは昭和61年(1986年)からで、大雨による災害に関心を持ってもらうためだそうです。

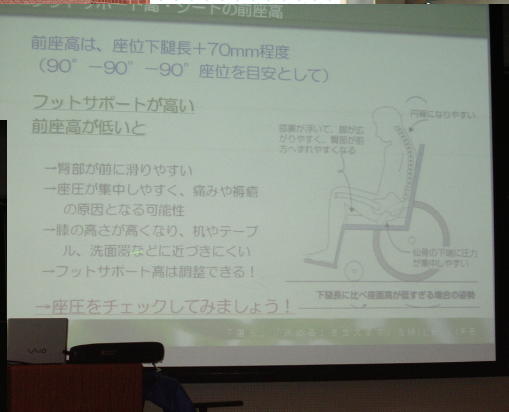
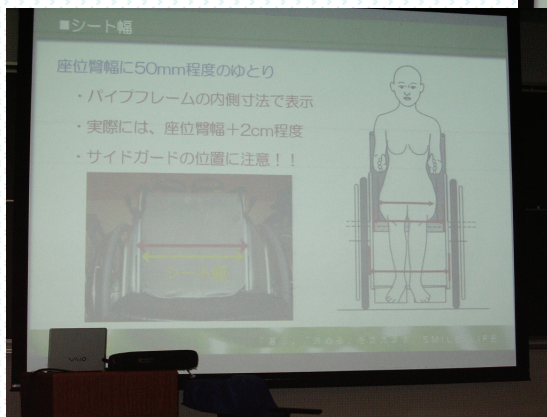
江戸時代には、曆に頼りすぎて農作業の時期を誤らないようにと注意書きが書かれていたそうです。自分の経験と勘で判断しなさいという事でしょうか。



去る5月25日(日)、佐賀大学医学部付属地域医療科学研究センター福祉健康科学(社会生活行動支援)部門 リハビリテーション工学分野と日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 主催、ケア・リフォーム・システム研究会協力で、「車いすと座位姿勢を適合し、自立支援を目指そう!」をテーマに研究会が開催されました。会場は佐賀大学医学部(鍋島キャンパス)看護棟1階講義室5101号室。

休憩時間もいろいろな車いすに体験乗車説明を受けて体感して...

佐賀大学医学部看護棟1階



『車いすと座位姿勢を適合し、自立支援を目指そう!』

- | | | |
|-------------------|-----------------------|---------|
| ・身体寸法計測と車いす寸法 | 神奈川県総合リハビリテーションセンター | 沖川 悦三 氏 |
| ・車いすの種類と人体への適合 | クラーク病院 | 桂 律也 氏 |
| ・車いすの移乗機能と生活の考え方 | 佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター | 松尾 清美 氏 |
| ・車いすの移動機能と構造 | 石川県リハビリテーションセンター | 北野 義明 氏 |
| ・車いすのクッションの基礎と選択 | 総合せき損センター医用工学研究部 | 江原 喜人 氏 |
| ・電動車いすのコントローラーの適合 | 総合せき損センター医用工学研究部 | 小林 博光 氏 |

以上のテーマで、10:00から16:00まで1時間の食事休憩を挟んで、みっちり講義を受けてきました。

車いすの適合を考える際には、使用者の身体寸法(体格)・身体状況(障がい)・運動能力(体力)・ライフスタイル・好み・目的・使用環境・人的環境・経済的環境等々を考慮しなければなりません。

中でも最も基本であり重要なのが身体寸法に適合させることです。

しかし、大多数の使用者は自分の身体に合っていないことすら気付かず、与えられた車いすに乗せられている現状があります。

提供する側は勿論、家族や使用者も他人任せにせず自分に合った車いすを選びましょう。

自立度を高め介護負担の軽減になります。行動範囲も広がりますよ!!